

W杯契機に観光振興を

静岡理工科大生 袋井「地域学」で提言

袋井市の静岡理工科大で十八日、市の冠講

座「地域学」の最終回が開かれ、「ラグビーワールドカップ(W杯)に向けたまちの国際化」について、一、二年の学生約四十人が政策を提案した。

市と大学が結ぶ包括連携協定による取り組みの一環で、市の若手、中堅職員五人がフ

アシリテーター(進行役)として参加した。この日は、学生らがW杯を契機とした観光振興、袋井の知名度アップなどグループごとにまとめた具体的な政策を発表。「市内の空き家をゲストハウスやカフェ、体験型店舗にリノベーションし、街の活性化、国際化につ

なげたら」、「JＲ愛

野駅からエコパまでの道にお茶、金魚すくいなど日本文化を感じさせる屋台を出店してみたい」などといった提

案があった。

講座は四日から全四回で始まり、学生らは原田英之市長の講義を聴講したり、グループに分かれて大学近くのエコパ、愛野駅などでフィールドワークに取り組んだりしてきた。

(土屋祐二)



ツアーを活用した誘客策について発表する学生＝袋井市の静岡理工科大で